

岡崎むかし館通信

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。



現在岡崎市は、市政100周年に向けていろんな事業を進めています。その一つに「エリアブックプロジェクト」が検討されており、様々な「地域」という単位が意識されています。むかし館では郷土岡崎を知るためのポータル施設として、地域の情報を収集し、発信していきたいと思っています。

郷土の素材いろいろ

ー 活用・教材化へのヒント ー

「城下町岡崎」を見直す

「城下町岡崎」を語る上で重要なキーワードに「東海道」と「矢作川」があります。いずれも徳川家康の命により整備され、岡崎の地は城下町とともに宿場町、矢作川舟運の湊町として海と山をつなぐ三州街道中馬の拠点となります。江戸時代の矢作川舟運のようすを今に伝えるものの一つに、「岡崎五万石」の唄があります。

五万石でも岡崎さまは アーヨイコノチャンス
お城下まで船がつく ションガイナ
アーヤレコノ船がつくお城下まで
船がつく ションガイナ
アーヨーイヨーイヨイコノチャンス
マダマダハヤソー



菅生川土場跡

この「岡崎五万石」がいつ頃唄われ、何が元唄になっていたのかを調べて行くうちに、安政6年(1859)、尾張のこでらぎよくちよう小寺玉晁編『ちまた小唄の衢』の中の、天保4年(1833)に流行した「まねき節」の中に見える、以下の唄にたどり着きました。

〴〵五万石でも 岡崎殿さ オオイ オオイ 城の下まで船が着く
えらい物じゃえらい物じゃえ

この唄がどのようにして、現在の「岡崎五万石」となったのかはよくわかりませんが、「お城下まで船がつく」の詞の背景には、矢作川、菅生川沿いの「土場」(舟運の荷を陸揚げする場)の存在があります。矢作橋近くで塩の荷揚げをする「八丁土場」、菅生川沿い殿橋東の「御用土場」、唐沢から菅生にかけて「桜馬場土場」、「満性寺土場」が古地図などで確認できます。このように伝承から、その歴史的背景を調べ、丹念に掘り起こしをすることで、興味深い学習につながります。そして、「五万石でも」に込められた、郷土に抱く人々の思いと誇りをぜひ考えてみてほしいと思います。【N】

岡崎市北部地域 「渡通津町」

先日、渡通津町に行ってきました。渡通津町は現在、世帯数9戸(小原姓2、柴田姓7)で、人数は15名の小さな町です。この町の歴史と暮らしについて、現在調べています。その中で、目に触れたものの一部を紹介します。



①道標

①道標：渡通津の人家が集中している所から、駒立へ向かって1キロ程行くと、旧道(松平往還)が林の中へ続いています。その分岐点で「左 大谷村 右 をかさき」と刻まれた道標を見つけました。裏には、「見わたせば春はかすみたなびきて 幕の下なる仁木 細川 足助 前田 勘兵衛之立」という歌が刻まれていました。「をかさき」は、現在の岡崎城のところを指すのでしょう。「大谷村」は現在の大柳町のことです。



②イモ穴

②イモ穴：氏神の八幡社の見学に行こうとしていた時に見つけたものです。八幡社参道脇に2ヵ所ありました。貯蔵穴と言われるもので、さば土と砂でサツマイモ、ジャガイモなどを貯蔵する自然の保管庫です。

地域をゆっくり歩いていると色々なものを発見することが出来ます。そのような話題を皆さんにお伝えしていきます。【N】

現在「岡崎五万石」に関しては、市内に3つの保存団体が活動されています。また、中央図書館にはCDや図書などの関連資料も収蔵しています。皆さんは「岡崎五万石」の唄を聴いたことがありますか？この機会に、改めて中央図書館でCDを借りて聴いてみたいと思います。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成26年5月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展「くらしの道具ー今と昔ー⑨仕立てる」 ～6/10】

《催事》むかし館で楽しむ「飛び出せ紙芝居」5/17(日) 14:00-15:30(当日50名程度)
教科書でお馴染み『ごんぎつね』『手ぶくろをかいに』など新美南吉作品を上演します。

次回予定 【企画展「くらしの道具ー今と昔ー⑩涼む」 6/12～9/9】